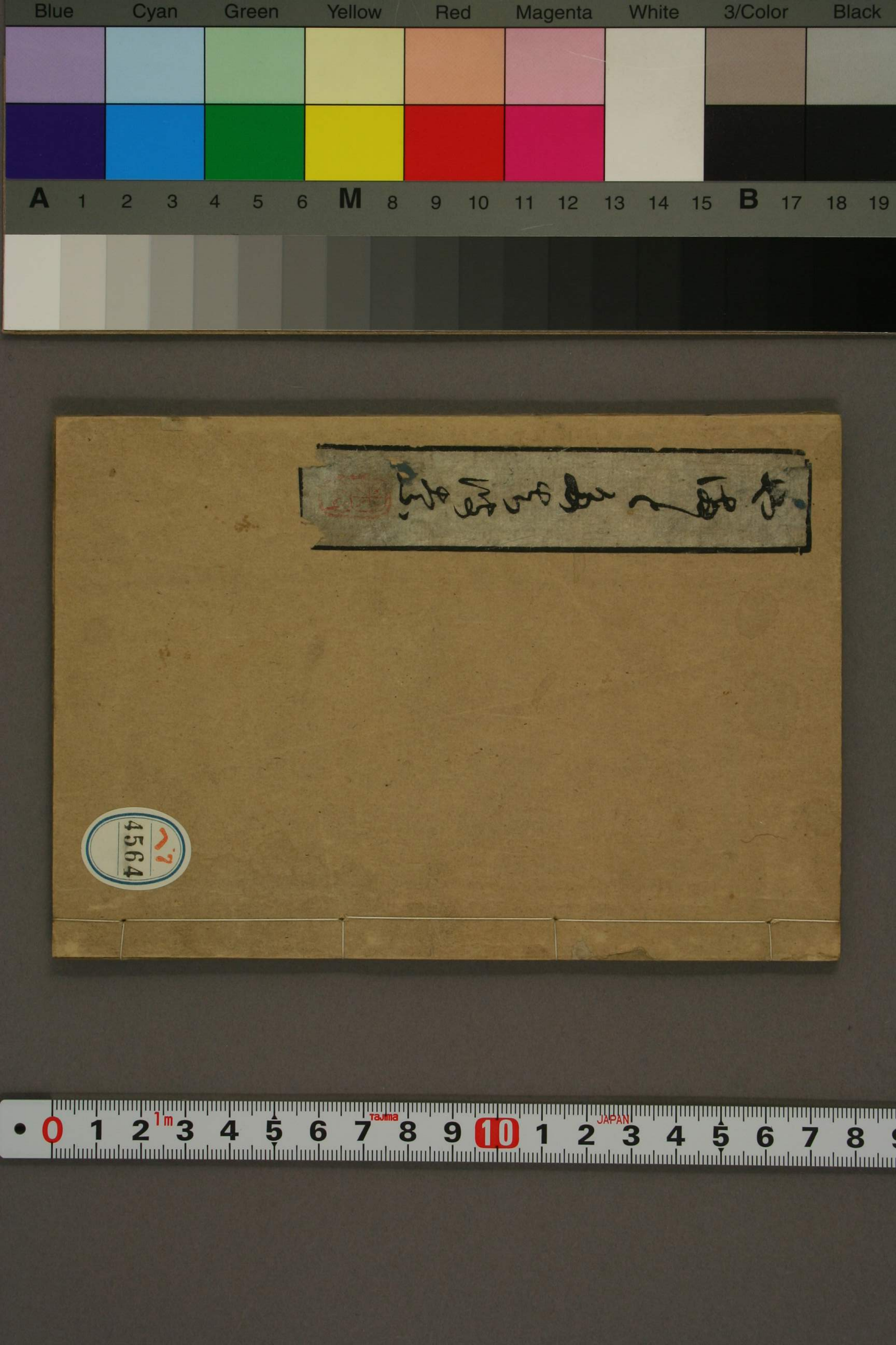
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
4564

五十一号
特
へ7
4564

日本橋

吉跡山人著

此書元禄の頃の作にて
やまと言葉をかりて書

昭和十一年
四月二十八日
購求

日本橋の序

梅花新陰小書屋。花は春より書
事の和歌。江南の佳景松。ふれ
天土の氣よりこの和。人よ私をぞ流
その形ん中。百生よ詩有。朝日の
おに二十字あまり。面白ぶ葉も。

かやのうへに母をとりてのんを行ふやう
いとゝ湯桶もふぜんにすゑまうけ
そもてやよ嫁まつ行水を花よ
あやとく身をきよめ流よりあがく
ゝをあをを解り。ふくさ月よあくぐ
ぜ。雪踏ゆゝ通る者よりを座り。

川の辺にて小れひの芝をたべく。
神よ祈り。佛ふ拝まひて。まゝ次ゆゝ
そうれをとりあもの。ぶとの深きとり
ぼうあをれまり。ふるみよ入道るんう。
かくいひそれ行ほ。ふるさの墓の西て。
ふるくれ紀を拝ん。彼佛を参

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四村光

無[illegible]

本橘

○子夜呉歌

[illegible]

青樓含月光緑池起風色贈子同心

花殷勤此何極

○二階ざしの月のひる川の水へうつる秋はの風よ

ひはの神とぞ[illegible]

うんの

汾上驚秋

はくこんの宮つかやしぬ下のせんうどの松とそれかくうれたる
花女月ほくれり

北風吹白雲萬里渡河汾心緒逢揺

落秋聲不可聞

○吹くらふ身はうれたるものくとうれ世を渡る
河竹のなんさくへ泪ぐく閑まるものの杖のうえ

無跡子曰うれくもに吹くふ身とくくう
○世をとくる門竹とほくくたり

照鏡見白髮

此くくこの小地の小町ぐさくふあ〜ぐいうんとぞれくくと
えぶぜしれよ餘り

宿昔青雲志蹉跎白髮年誰知明鏡

裏形影自相憐

○すゑのかくほくさくそのひ。宿昔。はくぐくあ。ぢのゆ
ゆれくほくるゆくしぬ。ほくまうふくさくふれかぐえ。

かげとかたちのふさたがとて（自相憐）

多紫子曰たがいにあはれみあはれとて
でけり

○

班婕妤

宮殿生秋草君王恩幸疎那堪聞鳳
吹門外度金輿

○身にかつぱかれの。恩幸の情もかなくよ。疎
どつもるもじのたゝるせりふゆばらし

よそのうんとのひんかど（度金輿）

女紫子曰わさとをあゝとうんのとと。
ひくとにぐやり

碧玉歌

ひとゝもゝ〇〇〇

○ 松の[碧玉]こぞくのすえ[小家女]そだちぞそのいろ[毎]
[深翠世]つの[ゆ]ゑにわ[感]ゐまる[即]ゐ[相顧]さけの[紙]ゐ[ゐ]。
[杉賀]ゐ[自]ゐ[ゐ]ゐ[ゐ]ゐ[ゐ

の[illegible]

玉階怨

[illegible]

長門燈下淚滴作玉階苔年々傷春

兩上苑墻來

○[illegible]孫の孫[illegible]

隋作

[illegible]庭陽苔

[illegible]

上花墻來

[illegible]

長門怨

[illegible]

[illegible]

白露下玉除風清月如練坐看池上
螢飛入昭陽殿

○[illegible]玉除の庭。[illegible]清[illegible]
月如練坐看[illegible]

[illegible]昭陽及[illegible]

[illegible]

古別離

[illegible]

欲別牽郎衣郎今到何處不恨飯
来遅莫向臨功去

○[illegible]郎[illegible]衣[illegible]

○何處(どこへ)到(いたる)やんさ(歟)をぶらのそゝしひとぶ(不恨)
ぶきをあ(遲)ぶらのるしひ(功)ぶきさまろんさ(莫向去)れ

孟浩子曰てこぶのえんんもうく伝のうゝもみゝれぶこゝゝくゝと京
たけといひくゝたるよあぶこゝるを女の居ゝゝうてぶきうゝれ
ゝゝぶるゝとゝんせのゝかるぶゝぶゝ万ゝゝまのゝゝゝうぶゝかゝくゝゝゝ
げるゝゝゝぶゝもゝくゝんゝゝゝゝ(こゝろ)が詠るゝゝぶゝゝゝゝゝゝゝ

秋風(シウフウイニ)引

ぶゝゝゝゝゝまのゝんゝゝくゝゝゝゝれゝるゝれゝのゝゝゝけゝゝゝゝまゝゝゝかゝゝ
ゝんゝるゝぶゝかゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○何處(イツレノトコロニカ)秋風(シウフウ)至(イタル)蕭々(シヤウ〳〵トシテ)送雁(カンヲ)朝来(テウライ)入庭樹(ニワノキニ)孤客(カクモノ)最先聞(モツトモサキニキク)

○ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

をつゝよはけてあさといひいそてるかんせのうらあのかゝんとゝひ
まくてるあきゝろれゝくよゝきゝろ行よきゝゝ行とゝろにや

恩君恩

はゝゝゝ一たゝびゝゝんせのゝのゝとゝ行ねのゝゝゝひもゝ寿ゝゝゝかゝゝむ
ゝゝゝゝゝかれゝゝよのゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

嫉妬怨

[illegible]

[illegible]

花枝出建章鳳管裴昭陽借問兼

恩者雙蛮幾許長

○花枝のさうのあげ屋町。裴昭陽借問

さいちゝと問ふやすくそんくと。どんるかのやうな。

夕蛮

月くとかのこの

安行の白花ちうんのうたよりたくさうのしとと

かのまのたまよいやもちんやうたんのたてずくたてろ

うとてやくとこれのさうのあげ屋所とづけちこまいん

たくさ女あけや所のわとうくやさて見やすくていうたあくど

すくくくくんくたぶのやくるやとのちほでといいんくちろ

まづやこのあげや所のわとびのたてそくろさてのをたいやや

しるのくろかるる花をくろさあるをひゞあれどそこゝゞ秋なる
さびしくふかまどどのゆくゝよりさまゞ男のさきよりゝとどかのゆう
うんにふいたさ
しるり

左掖ノ梨花

ふくゝふるゝ　のうゑのくゝゝゝのほのみさけをうくゝすぐと
ゑるゝゝを女のそゝゝそゑたるるゝゝてうれぐれる。
男のよるゝゝふくゝ
かいゆくゝるうゝべし

冷艶全欺雪餘香作入衣春風且無
定吹向玉階飛

○ぞんとうのうう。全ぞんとゆゝをくけゝとさるゝ。
火余のくゝらのほのゝく袖よくるかなあ。
且まわうゝゝゝ。莫定句ふゝ花をゝらくまぐも
私ゝゝゝ曰けくくく

見渭水思秦川

けうこうとうはくのうこうをみるに水のまこうるひとはれてんやくをくらいよたぐあんくんるるのひとるるはよをもとる民

渭水東流去何時到雍州漢添両行

淚寄向故園流

○渭川のあいこうるるん流水のはなりつる何時

雍州到

にくあくをくあをしぐやうつそなみさを身を

流寄向故園

みげくあるまよるぐのきまのうち

無終子曰如のしるるるくうるるの水こうくたりかやうれ如よ
年月を経てすくさうやるれくぐのあるとうそいり
しうらぐうかるも男のわるみいくるんやくぐさやうせん
そひうそうらるあうるぐは川あいるるいくうるうるうるぐ身
をうげて列しうるうるもやうんやいやは川あいるるくやうもうダ
るうぐの川うもまるあわれぐみうそうそうもに水とるみるぐ
いよくい川あまうるてうるやくうるるまのまうらくよるるん
しいうをうるぐのあうるい祚いるものるかわるぐし
るうるるのみいるうるかいるるるに　あうをうるを神いひつるめ
るうるぐ川うんるるぐまるきるはなのるん　かるるの如ぐるもあど

長干行

けうこうはくうるるるるるの一枚のるるみをうる女のるを
よるうるかの女無いるの姓奔の形まくるるるをせるまるはい

その歌なのじそうそうかうしやうぬをひまゝ〳〵ぬをといへたうしやさる
かうしやうぬをひまゝ〳〵ぬをひたう

君家住何處妾住在橫塘停船暫
借問或恐是同鄉

○君家いづくにかいもうとさるやんするゝ妾住ぐうしやうそ
在橫塘そんぢやうとそこちらつんとうこうぐうしやうのなつる
舟
あ〳〵ぶねてゝ
あ〳〵ぶねてゝ
あ〳〵ぶねてゝ

春暁

けさこそのびかりすゆのたなびくに人めの山をいとはるるかなとをえて男をたのまぬ女はつまとなるが女はあさとなるとくるとき
はなをなをまこと秋の夜の月はいつもかはらぬ物なれども人のこころのあるものなれば月をもあはれとおもふべしとかたらひ
ぬるよをあくるをうらめしがるべしとかたらひ

春眠不覺曉處々聞啼鳥夜來風雨聲花落知多少

○春眠

あかつきのまどろみのうちにあらしのまくらにかよひてはなのかをのあはれとおもふ

女あるてらまくやまとるやうとぐ〜係器の
えだらうこと　ふるよとをきつでんをを抽力紀樹木を
ふ〜ん〜　妻つづきをたのしてらをつて為ハ〜うとて〜
ける　あさまづれをそでんろる抽のくるよのまのれのこと
づくきよはくとや
まくかるひ作ん

作里舘

はくをんををよをつ人のひとを抽づらうる抽の作をでくよ
ををひををせくらるを〜月のくをるれよ行をやんてろ
をんを〜をはをる
るるべ〜

獨坐幽篁裏彈琴復長嘯深林人

不知明月來相照

○和抽坐抽の夜いるるくくをを出巻表をけのひと
うをよをんつ出巻表
人抽人不知ををくを抽月のかげ

毎位子曰ひをを抽のよいわ〜引のひをのををくあみをを抽
いをひををを抽のよいをんあるををを引をのを
しををの家を抽の二トをををををををををををををを
ををるををよるくをるををををををををををををを
をををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををを

[illegible]

怨情

[illegible]

美人捲珠簾深坐嚬蛾眉但見淚痕溼不知心恨誰

ふるさとや玉のすだれ珠簾の外にふく風に蛾眉

よるるなこのうらんよ浪痕

よ浦恨

誰のあやうん

[illegible]

[illegible]

秋浦歌

[illegible]

白髮三千丈。緣愁似個長。不知
明鏡裏。何處得秋草

白髮三千丈。緣愁似個長。
明鏡裏。何處得秋草

[illegible]

[illegible]

のうらぶくいとあられ
ふるみるるり

清平調

山くらいろくにほるをとびじんのかくらよくくにほの白ひ
のあさくくめくろをうくくよたるるくく

雲想衣裳花想容春風拂檻露華

濃若非群玉山頭見會向瑤臺月下逢

○かくらのきぬ雲ゆゑまぐしい艶るたうふる紀
ふくはたくふくるかをとふたくまたにほの乃

ひくらのきあくくめ芳玉山頂の芳はのくくにを
彩くは裳高ゆゑまぐるぐあくん月下の衣

あ紀る四かくらのきぬ一に澄くかくくうすにくあの名見
どよいはたくふくはくくにはくくくくくくくくくぐく
くくに紀きかのかくくくくくくくくく

のやまるぶいとの花をうんでやるのかのよ〜はくるの花をこ
ろうるまでひつまでかぞへるびじんいろ〜もあるそこの
こるりえまくはなのうえるのをうくふあまぶ〜るるくふ
けいとの所のふ〜んのをくけれる月の夜すがらうよりがはをと
はてびじんいあんとるるうこれびじんをいうんとと〜花のとをいひ
花をうんと〜〜〜〜人のことをふこそのきようくるり白をを表侍
とくはかのよ〜思とくよ〜をて
ふとあまぶ〜とはげたろう

其二

けいとうもたのうえにをめぐ
はかをくよはくるり

一枝濃艶露凝香。雲雨巫山枉断腸。借

問漢宮誰得似。可憐飛燕倚新粧。

○ひとえぶの。ぶ。花をうよををを。はるの
あををはををんをの白ひ。をををるうまをあをるる
ゆんうをはをよ。ちゆわを同くうんをあの
ををよ。はをまをはををんるうよわうんをよ。わゆをんふこ
はをゆ。はをはげ
ををゆ子曰はうをも花ををよいはるゆ花も美人よ
いへるはうはゆよををををるるの白ひををんをゆの花

ひとをとせてうかくのごとくなるこころをもつ女
をうらやましがるこころをもつ女にまさりてこ
ゝろ〳〵女にまさりてこゝろ〳〵女にまさりて
はなをねたむる花いつぐ〳〵よりあんたちなてこと
をうらやましがるこゝろをもつ女にまさりてこゝ
やみのまくるまでひび〳〵女のゆびけしをこゝ
ろをもつてこゝろをもつてこゝろをもつてこゝ
ろをもつてこゝろをもつてこゝろをもつてこゝ
ひじんをこゝろをもつてこゝろをもつてこゝ
のこゝろにひとをこゝろをもつてこゝろをもつ

其三

はなをもてはるをもてはるをもてはるをもて

名花傾國兩相歡常得君王帶笑看

解訳春風無限恨沈香亭北倚欄干

○花の名花まつりん人の傾国をしのふらとはるをしたがいん

まつくもをもつてはるをもつてはるをもつてはるをもつ

解訳とこゝろをもつてはるをもつてはるをもつてはるをもつ

の宿花のをとをもつてはるをもつてはるをもつ

楊貴妃の宿花のをとをもつてはるをもつてはるをもつ

楊貴妃曰まつりんの月をやつのやうなるをとをもつてはるをもつ

源氏物語をもつてはるをもつてはるをもつ

こゝろをもつてはるをもつてはるをもつ

はるをもつてはるをもつてはるをもつ

うみのごとくにかぎりなくうるはしき園よりさけるえだをとりてよいけるくるぶるらぞすくとるのやうなり

公子行

はくしんのごとくにかんくわの年のあをむくるえだをたくさんあるいはとをよ代とちぎりのつまとなるやうにかなくをつらぬきて二世のむつまじ陽光のらるをとるたいのうちのゆのまとゝ夜ゝとの中のうらみのあるこまをばげよくやうしてんうくゝ

天津橋下陽春水　天津橋上繁華子

馬聲週合青雲外　人影搖動綠波裏　綠波清週玉為砂　青雲離披錦作殿　可憐楊柳傷心樹　可憐桃李斷腸花　此日遨遊邀美女　此時歌舞入娼家　娼家美女聲金香　飛去飛來公子傍　的々朱簧白日映　娥々玉顏紅粉粧　花際能徊雙蛺蝶　池邊

顧歩両鴛鴦傾國傾城漢武帝。為
雲為雨楚襄王。古来容光人所羨。況
復今日遥相見。顔作輕羅著細腰。顔
為明鏡加嬌面。與君相向轉相親。與
君雙棲共一身。願作貞松千載古。誰論
芳槿一朝新。百年同謝西山日。千秋萬
古北邙塵

天津橋下陽春水。橋のしたの春の水。橋のうへ今
春の男。去てこひ去てこひ去てこひの。ちりぬる
もの分迴合人新相逢年彼緑波素乃裏。る
緑波迴玉砂乾波。うつくしき玉砂。かすかに柳の
るくれなゐ。おもひ柳のうつくしき。おもひ
たるもの分や桃のおもひと新しき桃のおもひ

無行子曰太一ぶん[illegible]
いとひをとりてとりやうがたとひ[illegible]
おとりふたりの[illegible]
よりんりこ生たたくのでんしゃうまこと[illegible]
まづせうん屋月の石[illegible]
[illegible]

○うらなめそびのあんばいぞんよ。[illegible]
[illegible]

つ。たらこ[illegible]
[illegible]

[illegible]

たつ[illegible]しの様。[illegible]

女史

無行子曰お[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○けよやけんせいけいこと。[illegible]
たつ。その[illegible]
[illegible]

のをまつてゐるとて。いま月のまへよりこんとうへて。
で笠性死ゆくもふたりまとりぢうこくまゆうこん柳綿
きくこも孫ごひをのくかぐこんぢうげをてくこんこゑの
かはこくんをうのくこのいよくふくきこふこ通双
身をおくもたせん修作真松仁載古
無名子曰たんごんちぢりのこうこあうこあるこあるこ
こうこやこうあくこやこまこまこをあのうこといひけ
たうやこうとうこうこをうこのれのこのこのこくこ
にあくこうくこやのまくこくこくこくこあるこ

こうこうまくこくこくこくこくこ右牙之うち
下のこくこくこを結す
○たがこくこくこやわこがくこのこさうこいたくこたくこもこ
立。百年百年九十九髮西山月出ちるをこて。千
代万代古北邨紀邨のこうこうこくこくこくこくこ
無名子曰毒樹をこくこくこのあこがねこつこうこ業生子がこくこくこ
を結くこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこ月のたんこくこくこ
野こくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこ
あこがねのこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこ
いこのこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこ
世のこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこくこ

安永四未三月

京師書林

蕃屋宗八

十四
十三終